

第3回広島城のあり方に関する懇談会（令和2年5月12日書面開催）
委員意見概要

○ **大庭委員**

- ・広島市のほぼどこからでも「広島城が見える」ことが大切で、市民のアイデンティティとして原爆ドームに匹敵する建造物になるべきである。天守閣の耐震補強をきっかけとして、天守閣の台座を含む高層化など、「見える化」に取り組むべきである。
- ・市に「広島城セクション」を設置して組織の一元化を図り、権限の過度な分散化を防ぎ、迅速な対応を可能とすべきである。

○ **本田委員**

- ・耐震改修か木造再建をするにしても、収蔵スペースをどう確保し、どのように保管をしていくのか重要な問題である。特に木造再建の場合、文化財の収蔵には不向きな建物となるので、外部に収蔵スペースを設ける必要が出てくる。
- ・三の丸の展示空間づくりにおいて、単に目玉資料を展示するというよりも、天守閣での展示及び収蔵庫の一部をカバーする役割を持たせてもよいと思う。
- ・天守閣第一層の広島城紹介の展示は二の丸へ移し、重要な展示品である鯢瓦などは三の丸展示空間に移して常設し、第一層フロアの半分を収蔵庫として改修するのがよいと思う。

○ **上田委員**

- ・「中央公園の今後の活用に係る基本方針」における「文化を醸し出す空間」に関する説明には、広島市立中央図書館を加えるべきである。中央図書館は欧米の成熟した都市では大きな核であり、館内の浅野文庫にある浅野家より寄贈された図書、古文書は日本的価値を持ち、今後の歴史ゾーンの中で大きな意味合いを持つ。
- ・天守閣のコンセプトは、「広島歴史を幅広く学び、体験する」とともに、「城の役割・機能を知り学ぶ」場とすべきである。天守閣に見学に来た人は、広島歴史とともに、天守閣のその場で、城の役割・機能を知りたい、学びたいと思う。
- ・新たな収蔵庫をどこに建設するか緊急の課題である。
- ・広島城の天守閣や二の丸復元建物において、「外国人を含む観光客を主なターゲットと想定しつつ、市民に訪れてもらえるよう…」となっているが、より地元のリピーターを重視し「主な」は削除するか、地元のリピーターの大切さを強調する文章が欲しい。
- ・今後の広島城の魅力向上には、人材育成と機能性のある職場が大切であり、広島城管理事務所をどうするか検討すべきと思う。

○ **金城一國齋委員**

- ・天守閣の再建を見据え、場所と外観を考慮した広島城宝物庫を新設すべきである。
- ・収蔵品のデータベースを作成し、データベースに基づき収蔵場所を選定すべきである。
データベース項目は次のとおり考えられる。
分類名（大分類・小分類）、作品番号、資料名称（漢字・よみ・欧文）、制作年（西暦・和暦）、寸法、材質技法、資料形状、員数、収蔵場所、資料画像、取得額、評価額、修復歴、受入年月日
- ・収蔵品の現状調査により、修復又はメンテナンスを実施すべきである。
- ・収蔵品の文化財指定を検討すべきである。
- ・広島城宝物展をひろしま美術館で開催してはどうか。
- ・三の丸のおもてなし拠点のメイン通りのネーミングは、「鯉こい通り」や「こいこい横丁」はどうか。

○ **角倉委員**

- ・「天守閣の耐震診断調査結果を踏まえた今後の対応」における「検討の留意点」において、集団検温装置の設置、定期的な換気設備の配備、密集を避ける通行路の確保などを含めた感染症防止策の観点を加える必要があるのではないか。